

平成17年度（2005年度）法曹実務専攻（法科大学院）

A日程入学試験・出題意図

「小論文」

問題1

【出題意図】

民主主義は個人の自由や平等と不可分なものと考えられているため、現代政治において倫理的に正当なものだという認知が広がってきていることは疑いないだろう。しかし、そうだとすると、民主主義は平和を約束するのか。「民主主義国どうしでは、他の政治体制の組み合わせと比べて戦争が起こりにくい」という民主的(デモクラティック)平和(・ピース)論は、冷戦後、民主主義と市場経済が東西共通の認識になったことの反映として現れてきたものであるが、このことについては賛否両面から大激論が交わされてきている。

将来法曹として活躍しようと思う者が、この民主的平和論^{デモクラティック・ピース}の細かい議論を知っておく必要があるとは思わないが、古くて新しい民主主義の問題を少なくとも一度は考えることがあってもよいと思う。そのような観点から、本文を採用し、問1を立てて民主主義に関する問題関心と読解力を見た。また、問2と問3では民主的平和論^{デモクラティック・ピース}の命題について（歴史的事例ではなく）論理的に説明できるか、あるいは反論できるかを問うた。実際問題として法曹の世界では、自分の議論をいかにうまく展開できるかということに加え、相手の議論をいかに論理的に覆すことができるかが重要になる。一面的な議論にとどまらず、多面的な見方ができるか、あるいは真っ向から対立する意見に向き合う素養を持っているかどうかを判断するために出したのが本問であった。

問題2

【出題意図】

未来の法曹となるに向けて、根拠ある政策決定を説得的に展開する力を試した。4つの課題文を読んで自説を展開するという形式に驚いた受験生も少なくないと思うが、まさに世の中には「正しい」見解などなく、他の見解と関係性を有しながら主張・立証・決定せざるをえないと思うのであるが、そういった力を試すものとして、問題2ではこのような出題形式を選択してみた。問題1がやや抽象的な課題文から論理的展開力を試すもので、オーソドックスな出題形式で、やや読解力重視であって、テーマが民主主義であったのことにコントラストがある。問題2のテーマは教科書検定制度であり、法学部出身者でなくても、誰でも、それが何であるかは知っている内容である。議論はできるはずである。この問題は、自由主義をどこまで信用するか、の問題でもある。この制度をどうすべきか、を十分に根拠づけて展開することが望まれる。

課題文は4つで、それぞれ筆者の専門は異なる上、立場も微妙に異なる。いずれの課題文もエッセー的なもので読解は容易であるが、全体の分量は長く、記述量も2問で1300字

になるため、文章の構成を考えてから書き出さねばなるまい。問1は、まず、4つの課題文の立場の違いを分析するものであり、同様に制度に批判的であるといっても、廃止論なのか制度の運用を改善すべきという意見なのかを選別し、また、その根拠の違いを示すことを求めている。問2は、その上で、自己の見解を示すことを求めているが、少なくとも、どの課題文も内包していたであろう、学問、科学において客観的に「正しい」などというものがあるのかという点、それを国や文科省が公式に決定してよいか（あるいは誰が決定するのか）という点には、触れなければ議論は先に進まないであろう。そして、この設問は「制度」について論ぜよとしたものであり、特定教科の検定における検定官の心得のようなものを論じては評価外である。また、この設問は、問題を区別して論じる力も試しており、問題文には「高等学校で」という文字がある。つまり、小・中学校ではなく、大学でもなく高校ではどうかという限定を加えているので、これらとの区別が可能であれば区別を明確に、可能でなければ可能でない理由を明確にすることが望まれている。受験生はそれぞれの専門の立場から、現行制度について考えがあり、その根拠は課題文のほかにもあろう。それを加味することはもちろん望ましい。言うまでもないが、論拠が十分であれば、結論が廃止論であれ、改善論であれ、現状維持であれ、そのこと自体を評価の対象にするものではない。

【講評】

問口の広いテーマであったのか、白紙同然の答えはほとんどなかった。しかし、得点は平均4割少々と低調である。問1では、4つとも現状「否定的」とまとめ、どのように立場を異にしているかを明示的にしていない答案が多かった。根拠の違いも不鮮明であった。これは読解力の問題である。問2では、歴史教科書に限定した議論を展開したもの、高校に限定することを一切忘れた論が多かった。これらは何れも高得点は望めない。また、根拠は複数あろうし、別の見解に対する批判も可能であるし、1000字という分量はそれを求めるものであったらうに、比較的単一の根拠を長く展開して結論を導くものや、4つの課題文の要約を問2で延々で行うもの（それは問1であろう）がかなりあったように思われる。このため、文章量がそもそも少ないものはあまりなかったが、十分に議論を展開したと評価できるものは少なかった。法科大学院入試の小論文で、安易な感想文や印象論、政治評論を求めているわけではないことには、頭を巡らせて欲しいと思う。